

野生鳥獣の生態調査から行動予測まで、ジビエDXの提案

● 研究の特徴・独自性

鳥獣害被害の抑制と持続可能な野生鳥獣肉供給の実現

- 日本国内では、野生鳥獣（たとえば鹿など）による農作物被害が年間数十億円～百億円規模に上り、観光資源被害や生態系影響も懸念されています。
 - 本研究は、以下の3点を軸に**ジビエDX**を実現し、鳥獣害抑制と野生鳥獣肉供給の持続可能化を目指します(図1)。
1. **労力をかけない野外データ収集**
 2. **動物個体識別技術**によるオープンデータベース・UIの作成
 3. 位置情報履歴のビッグデータから、その個体の未来の行動を予測する**捕獲最適化**
- これらの技術に基づき、野生動物の生息段階から捕獲・消費までの情報を管理するトレーサビリティを実現し、ジビエの安全性を確保を目指しております。



図1: ジビエDXの主要な3基軸について

● 社会実装・応用例

- **産業界へのアピール**
 - 獣害・農作物被害対策、ジビエ流通、AI/IoTシステム検証といった多面的なビジネスニーズに応えます！
 - 共同研究、実証フィールドのご提供、サービス/製品化のご相談を歓迎しております。
- **応用・活用例**
 - **オープンデータ連携:**誰でもスマートフォンから投稿・利用できる野生動物データベースを構築しています。
 - シカだけではなく、様々な動物へ転用可能な技術です。
 - 角の生え代わりなど、身体的特徴変化にロバストなシステムの開発を行っており、現在角の成長予測に基づく画像生成AIの開発に取り組んでいます。

研究キーワード : 野生鳥獣被害、ジビエDX、個体識別技術、距離学習、成長予測、IoT



大学院 総合研究部 工学域
電気電子情報工学系 (コンピュータ理工学)
助教

張江 洋次郎



山梨大学
研究者総覧

論文: 2023-2026, 科学研究費 基盤研究(C), 獣害被害の抑制と持続可能な野生鳥獣肉供給のためのジビエDXの実現